

令和8年度

学 校 経 営 方 針

上尾市立東中学校長

令和8年度

上尾市立東中学校 学校経営方針

校長 石田 賢一

令和8年度のキャッチフレーズ

学ぶ喜びを感じよう

本校は昨年度より「学ぶ喜びを感じよう」をキャッチフレーズに掲げ、学習を単なる義務ではなく、楽しみや喜びを伴うものとして捉え直す学校文化の醸成に努めてきた。令和8年度は、この育まれた土台をさらに進化させ、個々の生徒が抱く「わかった!」「もっと知りたい!」という知的なワクワクを、周囲や集団へと波及させていく「学びの循環」を目指す。

具体的には、一人ひとりの気付きや発見を学級全体、さらには学校全体のエネルギーへと変えていくプロセスを重視する。生徒が自らの興味を深め、その喜びを他者と共有し合うことで、集団として高まり合う「学びのワクワクが止まらない学校」を具現化していく。

この姿は教職員においても同様である。教育者自身が未知の知見に挑戦し、自らの成長に達成感を見出す姿こそが、生徒にとっての生きた教材となる。教職員一人ひとりが向上心を持ち続ける専門家集団として、生徒と共に学び、響き合う。大人になっても学ぶことは楽しいという憧れを生徒が抱けるよう、全教職員が一丸となって、活気あふれる東中学校を創造していく。

1 学校経営の基本理念 ー個性を尊重し、未来を創る力を育む教育ー

これからの社会を創り出していく生徒たちが、情報化やグローバル化などの急激な社会的変化の中で、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力は何かを教育課程において明確化し育てていくことが必要である。そのために、生徒一人ひとりの個性を認め大切にし、その能力を伸ばす教育の実現を目指す。

2 学校教育目標

『 志をもって学ぶ たくましい心と体の 東中生 』

- 「志をもって学ぶ」とは、将来の夢や目標を明確に持ち、それに向かって積極的に学び続けることである。
- 「たくましい心と体」とは、人生100年時代の基礎となる健康な体をつくるとともに、困難に立ち向かい、自己を成長させるための力強さや耐久性を身に付けることである。

3 目指す学校像、生徒像、教師像

(1) 目指す学校像

- 新しい時代(Society5.0)に求められる生きる力<資質・能力>を育成できる学校
- 生徒全員の学ぶ喜びを育む学校
- 保護者・地域の人々と共に創り上げ、絆を育む学校

(2) 目指す生徒像【東中学校区共通】

- 自分自身で考え、主体的に学ぶ児童生徒
- 心豊かで、自他共に大切にできる児童生徒
- 心身共に健康で、たくましい児童生徒

(3) 目指す教師像

- 謙虚な姿勢で、自らの言動を振り返る教師
- 生徒・保護者の心に寄り添い温かく人間関係を築く教師
- 自らの「人間性」を磨き続け、向上心を持ち、学び続ける教師

4 小中一貫教育

本年度より本格的に始動する小中一貫教育においては、本校の教育活動の柱である総合的な学習の時間「GCE（シティズンシップ教育）」を核に、持続可能な社会の創り手となる児童生徒の育成を推進していく。

「GCE」の充実を図るにあたっては、各教科等で習得した知識・技能を、単なる習得に留めるのではなく、小学校段階から現実の課題解決に向けて統合・活用させるプロセスを重視する。こうした教科横断的な学びを通じて、実社会の多様な場面で機能する汎用的な能力を育成するとともに、それらを互いに発揮し合うことで、集団としての学びをより高次のものへと深化させていく。

(1) 東中学校区の目標

- ①自ら学び、自ら考え、自ら行動する児童生徒の育成を図る。
- ②多様性を尊重し、共に学び合う人間関係を築く力を育む教育活動を推進する。
- ③自分の良さや可能性に気づき、自信をもって行動できる力を育てる。

(2) 東中学校区の基本方針

- ①計画的、組織的に指導力の向上に努め、学校の充実を図る。
- ②生徒指導、教育相談の機能を生かし、不登校のない学校を目指す。
- ③教師の適切な指導の下で、自主性・主体性を育て、個性の伸長を図る。
- ④常に教育計画を見直し、保護者や地域の期待に応える学校づくりに努める。
- ⑤保護者や地域、関係機関との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。

5 具体的な方策

(1) カリキュラム・マネジメントの確立(全教科を通して育む資質・能力)

- ①問題解決力を育む学習活動
- ②コミュニケーション能力の向上
- ③主体性・協働性の促進
- ④情報活用能力の育成
- ⑤多様性への理解を深める教育
- ⑥情報を分析し、根拠に基づいて判断する能力の育成

(2) 社会に開かれた教育課程の実現(保護者、地域と協働で進める学校づくり)

- ①地域との共生意識の醸成
- ②地域の人々との学びや体験型学習の推進
- ③学校からの情報発信ネットワークの充実

- ④地域人材の活用
- ⑤地域貢献活動の推進

(3)自立する力の育成

- ①自己理解と目標設定
- ②責任感と自己管理能力
- ③柔軟性と問題解決能力
- ④他者との協力とコミュニケーション能力

(4)たゆまぬ研鑽と「チーム東」としての指導体制の確立

- ①定期的な研修と学び合いの機会の確保
- ②情報共有と協力の促進
- ③チームビルディングとモチベーションの向上

(5)安心・安全できれいな学習環境の確立

- ①清掃、衛生教育、設備点検の徹底
- ②安全対策の徹底
- ③心理的な安心感の提供

(6)「シティズンシップ教育」(GCE)の推進

- ①社会参画意識とグローバルな資質を育み、持続可能な未来を創る力を養成
- ②総合的な学習を基盤に、カリキュラムを統合的に編成・実践
- ③生徒一人ひとりの社会参画意識の向上とグローバルシティズンとしての資質・能力の育成
- ④社会における諸課題の背景を理解し、その解決に主体的に関わることを通して、持続可能な社会を目指す資質の育成
- ⑤多様な他者と協働できる力の習得
- ⑥小学校における総合的な学習の時間について情報交換を行い、小中7年間を見通したカリキュラムの研究

6 令和8年度の重点・努力点

(1)学力向上 …生徒が「学ぶ喜びを感じる」

- ①生徒の興味・関心を活かした授業
- ②学びのアウトプットを重視した授業
- ③学びの「見える化」
- ④成功体験を積ませる
- ⑤「なぜ？」を大切にする問いかけ
- ⑥協働学習の更なる推進
- ⑦ICTの活用
- ⑧生徒のやる気を伸ばす評価の工夫

※生徒の実態を分析し、①～⑧の取組を1つ以上一年間授業で継続する。

(2)不登校対策

- ①スペシャル・サポート・ルーム（SSR）の更なる活用
- ②教育相談部会の充実

- ③特別支援教育の充実（A・Bプランの活用）
- ④関係機関との連携

(3)生徒指導

- ①いじめ対策（未然防止・早期発見・早期対応）
- ②組織的生徒指導体制の充実
- ③関係機関との連携

(4)働き方改革の推進…「組織改革」

- ①校内組織の改革（分業と役割分担の見直し）
- ②更なる業務の見直しと削減（行事等の見直し）
- ③部活動の負担軽減（地域クラブの活用）
- ④メンタルヘルスと労働時間の管理

(5)コミュニティ・スクールの充実

- ①学校運営協議会の積極的活用
- ②学校運営協議会が「主体」となっていく取組の実施
- ③地域人材の積極的な活用
- ④関係機関との連携